

平成28年度事業計画

(平成28年4月1日から平成29年3月31日まで)

平成28年4月1日から平成29年3月31日までの期間、一般社団法人日本分析機器工業会が実施する事業計画を次のとおり定める。

I. 工業会基本方針

- 1) 委員会事業の連携強化と成果の還元
- 2) 国内外の諸団体とのグローバルな連携強化
- 3) 情報の受発信の充実
- 4) JASIS の更なる飛躍
- 5) 会員各社の連携によるソリューション提供

II. 平成28年度事業計画の重点ポイント

①「技術力向上」に向けた産学官連携の強化

工業会として、新しい時代の要請に応える最先端機器・関連製品を開発、製造し提供することを支援するため、関係省庁、公的機関、大学及び産業界との産学官ネットワークをより確固たるものにする必要がある。

このため関係機関との連携をさらに深化させていく事業を盛り込むこと。

②グローバル化の更なる推進をはかる。

JAIMA のグローバル化のために、JASIS のグローバル化、情報の受発信のグローバル化など各委員会が有機的に連携して施策を立案し、従来事業の見直しを図ること。

また、これまで築いてきた ALDA-EUROM II -JAIMA との関係を始め、アジアの友好団体との連携も強化発展させ、相互にメリットのある活動を盛り込むこと。

③ 情報の受発信の充実をはかる

国等への政策提言を進めるとともに、その施策や規制、税制、新しい技術などの情報をいち早く会員企業へ提供すること。工業会統計の更なる充実を図り、会員企業の事業発展に資する的確な情報を提供すること。

工業会の活動を海外に向けて発信することにより、国際的なプレゼンスを高めるとともに、ホームページなどの広報関係の充実を図り、情報の受発信をタイムリーに行う事業を盛り込むこと。

④ JASIS の更なる発展をはかる。

JASIS の成長に向けた施策を JASIS 委員会、JASIS 中期戦略検討特別委員会そして関連委員会が連携して検討・展開していくこと。JASIS の 新成長分野として位置づける特別企画「ライフサイエンスイノベーションゾーン」やテーマ別新技術説明会としての新企画「オープンソリューションフォーラム (OSF)」などの取り組みを含め、JASIS の更なる発展を目指す事業を盛り込むこと。

⑤会員各社の連携によるソリューション提供の強化

広範囲な分野で展開されている分析技術のニーズや課題、そして近未来市場を的確に捉え、会員企業が協力してユーザーへのソリューションを提供する取り組みを強化すること。

Ⅲ. 委員会別活動計画

1. 企画戦略会議

予算額 3,400 千円 (昨年度 4,380 千円)

(ADP 委員会、JASIS 中期戦略特別委員会、認定事業関連費を含む)

理事会の諮問機関として、事業計画、予算案の策定をはじめ、理事会の特命事項や工業会全体の事業の円滑な遂行を図ると共に、各委員会事業の進捗をモニターし、工業会全体として事業計画が円滑に遂行できるよう調整する。

(1) 委員会事業のモニタリング・コーディネーション及び成果の確認

1) 委員会事業の進捗のモニタリング・コーディネーション

常設委員会の活動をモニタリングし、必要に応じ調整や支援を実施する。

2) 正副委員長会議の開催

正副委員長会議を適宜開催し、委員会事業の情報共有の推進と連携強化を図る。

3) 委員会事業の成果の確認

平成 28 年度事業成果を取りまとめ、理事会等へ報告する。

(2) 工業会のグローバル化の推進

グローバル化特別委員会における検討結果を踏まえ、そのアクションプラン実現に向け、各委員会の計画立案及び実施の推進を図る。

(3) 国内外の諸団体との連携強化

ALDA(米国)、EUROM II (欧州)等の関連工業会との会合を通じて統計の交換および将来展望や発展についての情報・意見の交換をする。また、EDMA (欧州)、AdvaMed-dx (米国)等の関連工業会との会合を通じて IVD 機器事業の将来展望や発展についての情報・意見の交換をする。(一社)日本臨床検査薬協会と共同で IVD-MD 会議を開催する。

(4) 分析機器・科学機器遺産登録認定

予算額 2,500 千円 (昨年度 2,100 千円)

歴史に残る分析技術・分析機器及び科学技術・科学機器関連の遺産を適切に保存し、文化的遺産として後世に伝えることを目的に、(一社)日本科学機器協会 (JSIA)と共同で歴史的に重要な分析機器・科学機器の認定を行う。尚、遺産認定事業は今年度 (5 回目) で一旦休止し、次年度には認定事業の記録の残し方を検討する予定。

(5) 特別委員会等を組織して行う活動

1) JASIS 中期戦略検討特別委員会

工業会として JASIS 事業をどのように進めるかにつき、昨年度の展示会小間料改定提案に引き続き特に重要な項目を検討する。

2) ライフサイエンス市場研究会 (仮称)

ADP (Advanced Diagnostics Project) 特別委員会の成果を引き継ぎ、高度分析

技術をベースとした新しい技術の進歩や、IT技術を中心に急速に進化している社会情勢をキャッチアップし、その新しい動向やニーズをいち早く捉え、「健康医療産業」に対する分析機器の参入の可能性についてレビューし、産業化のためのプラットフォームづくりに向け検討を行う研究会を設置し、結果を会員にフィードバックする。

2. 技術委員会

予算額 9,300 千円(7,465 千円)

別途 JASIS コンファレンス関連予算等 7,000 千円(4,700 千円)

分析機器の品質、性能の改善向上及び分析技術の開発向上に関する次の事業を行う。

(1) JASIS コンファレンス

JASIS で併催される JASIS コンファレンスを企画・運営する。

(2) 東北大学の分析機器基礎講座「素材評価学」の支援。

平成19年度から実施している同講座への支援を今年度も継続する。14回の授業を予定している。

(3) 日韓技術交流セミナー

大韓化学会との交流によるセミナーを開催する。今年度は JASIS で開催の予定。

(4) 技術動向調査

OSF の企画、分析機器の手引きの規格等の技術委員会が実行する技術セミナーや技術ドキュメント作成のための各種調査を行う。

(5) 分析機器の手引きの発行

「分析機器の手引き」の発行（JASIS にて配布）を引き続き行う。

なお、2016 年度以降の新版作成に向け検討部会を組織し検討を開始する。検討作業は複数年を予定し、変更内容は新分類（目次変更）、用語統一、多言語化等で、分類変更に関しては、年表や集計との整合を図る。

(6) 高校生向け講習会

昨年度と同等の規模で継続開講する。10～15社の支援で60名程度を対象に開講予定。昨年度より活動内容を内外に告知するため、平成28年度も経産省管轄の「キャリア教育アワード」に継続して応募する。

(7) 他団体との連携

他団体の実施するセミナー、JASIS における他団体との連携企画を通じて、分析機器業界の認知度を高めるとともに、技術情報を交換し、技術動向調査の糧とする。

(8) 常設委員会・特別委員会への参画と連携

技術委員会と関連する JASIS 中期戦略検討特別委員会及び ADP 特別委員会等への参画・連携及び関連委員会との連携によって工業会事業の推進に貢献する。

3. 環境委員会

予算 1,710 千円(2,240 千円)

環境分野における分析技術・機器に関する規格・標準化の推進及び規制への対応等を目的に次の事業を行う。

(1) 規格・標準化事業の推進

1) JIS 改正原案作成

JIS K0123「ガスクロマトグラフィー質量分析通則」の改正作業を実施する。

2) JAIMAS (分析機器工業会規格) 原案の検討を行う。

JAIMAS 0007 ガスクロマトグラフ質量分析計の性能表示方法の改定作業を行う。

3) 外部団体の委員会へ参加し工業会プレゼンスを発揮する。

①環境測定 JIS 体系の構築戦略委員 (含金属分科会)

②IEC/TC111-WG3 対応国内 WG

③ISO/TC45/SC2/WG5 化学試験法分科会

④ISO/TC146/SC6 国内対策委員会

⑤ISO/TC229&TC281 国内審議委員会

⑥AS-NITE 技術委員会

⑦QMS 規格委員会

⑧日本工業標準調査会 (JISC) 化学・環境技術専門委員会

⑨日化協/技術委員会/化学標準化 WG

⑩日本環境測定分析協会 JIS 原案作成

⑪試薬協会関連 JIS 委員会

⑫アルキル水銀測定法国際標準化検討委員会 (ISO/TC147 への NWIP の準備)

(2) 会員への環境規制関連の情報収集・提供

1) 環境規制関連事項についての会員向け講演会、環境 ISO14001 関連セミナーの開催を行うほか Cate 8,9 関連工業会連絡会へ参加する。

2) 欧州規制等に係る情報 (RoHS、REACH、WEEE、ErP 等) を収集し解説資料 CD としてまとめる。国際規格情報 (Cate 8,9 情報もいれて) を四季報として、会員 web に掲載するほか、Cate 8,9 関連工業会連絡会と連携した環境セミナーの開催、資料 (別冊) の発行を行う。WTO 関連事項に関しては経済産業省と緊密に情報交換を行い、行政に協力する。

3) JBCE 環境委員会への参加

RoHS 指令カテゴリー8,9 製品固有の RoHS 適用除外項目と新規規制物質追加の課題を訴え、さらに日本からも会議に参画し、よって工業会のプレゼンスを示し、会員製品の RoHS 適合のための取組推進に資する。

4) 環境規制関連事項について講演会を開催する (年 6 回)。

5) 欧州規制等に係る情報を収集し解説資料としてまとめ配布する。

(RoHS、REACH、WEEE、Er 等)

(3) 環境分析関連資料の充実及び情報の提供

分析機器の手引きの資料編 III 分析機器関連資料のメンテナンスを行う。

(4) 見学会の実施

先端的研究所の見学会の実施 (会員対象、年 2 回)。

(5) 環境委員会のプレゼンス発揮

環境技術関連の技術動向調査の実施。

(6) 常設委員会・特別委員会への参画と連携

環境委員会と関連するグローバル化、ADP 特別委員会等への参画・連携及び関連委員会との連携によって工業会事業の推進に貢献する。

4. 労務委員会

予算 210 千円 (210 千円)

各社の労働条件に関する情報交換や事例研究を通じて、分析機器産業における制度改定や制度構築に資することを目的に次の事業を行う。

(1) 主要労働条件に関する調査・研究

人事・賃金制度、労働時間制度、退職金・年金制度等主要労働条件に関する調査・情報交換・事例研究を行う。

(2) 労務・人事担当者に対する講演会の開催

外部から識者を講師として招聘し、実務者向け講演会を開催する。

(3) トピックス的信息交換

人事・労務管理上での日常的・緊急的課題に関し情報交換、意見交換を行う。

(4) 異業種交流会

他業種の人事・労務担当者とテーマを定め情報交換、意見交換を行う。

5. 知的財産委員会

予算 430 千円 (430 千円)

分析機器関連の知的財産権につき以下のとおり、調査活動及び情報交換を行う。

(1) 分析機器に関する知的財産権の管理推進を目的とする、会員企業への情報提供、会員企業間での情報交換の推進。

1) 知的財産委員会を開催し、会員企業間の有用な知財関連情報の交換を行う。

2) 分析機器以外の事業分野における知財管理実務を見学し、自らの知財管理の一助とする。

3) 知的財産権に関連する実務を推考する上で有用な知識及び情報の共有化を図り、併せて会員企業の若手実務者のスキルアップを図るため、実務小委員会を設置する。活動成果は積極的に開示し、会員企業の実務遂行に役立ててもらおう。

4) ライフサイエンス分野を中心として、各国の知財制度の研究や、産学連携について研究する。

(2) 特許庁との情報交換

特許庁審査官等を招き、行政と会員企業間の交流・情報交換を行う。

(3) 海外調査

海外に調査団を派遣し、知財に関する司法・行政機関を訪問して情報収集をはかり、また、現地企業を訪問して情報交換を行う。

(4) 講演会の開催

知的財産権に関連する有識者（企業知財経験者、学者、弁護士、弁理士）による講演会を開催する。

6. 国際委員会

予算 4,560 千円 (5,160 千円)

別途 JASIS 関連 予算 7,400 千円 (6,540 千円)

分析機器産業の国際化に対応するため以下の事業を行う。

(1) JAIMA のグローバル化

1) 海外友好協力団体との連携強化

① 欧米友好協力団体：ALDA（米国）、Eurom II（欧州：GAMBICA（英国）、

SPECTARIS(独)ほかとの連携強化と交流推進

②アジア友好協力団体：(中国 CAIA/BCEIA、韓国 KSIIC/Korea Lab、台湾 TAITRONICS、香港 HKTDC、シンガポール SES、ベトナム VINALAB/VINATEST、インド IAIA 他)との連携強化と交流推進

③海外展示会主催団体との交流推進 (ピッツ展、メッセミュンヘンほか)

④新規友好団体の開拓と MOU 締結

2) JAIMA の海外向け情報発信とプレゼンス向上

①英国大使館主催英国企業向け WEBINAR 開催 (2016 年 2 月) のフォローアップと他の大使館への展開

②海外でのテーマ展示やフォーラムの開催

③海外展示会にて Japan パビリオンの構築や Japan Quality 共通ロゴ使用によるプレゼンス向上。

(2) JASIS のグローバル化とアジアのハブ展化

1) 海外展示会派遣計画に基づき、中国、韓国、台湾、香港、インドネシア、インド、米国、ドイツ等の海外展示会に出展し要員を派遣し、海外企業及び団体の JASIS 出展促進、新規友好協力団体の開拓を図る。

2) JASIS のアジアのハブ展化を目指し、アジア各国からの集客増を計るべく、中国、韓国、台湾、香港、東南アジア各国 (シンガポール、ベトナム、タイなど) の分析機器関連友好協力団体を訪問し JASIS への出展・来場の勧誘活動を行う。

(3) 会員各社の連携によるライフサイエンスイノベーションなどのソリューション提供

1) 米国 ALDA、シンガポール Separation Science などの海外団体との連携によるライフサイエンスイノベーションに関する技術・規制・海外市場動向などの情報の入手と会員への還元、産業化へのプラットフォームづくりに取り組む。

2) JASIS 2016 ライフサイエンスイノベーションゾーンでの海外企業・スピーカー誘致、海外来場者勧誘と海外企業との B2B(ビジネスマッチング)の支援。

3) シンガポールでのフードサイエンスフォーラムの開催

(4) 輸出管理に関する情報収集と啓蒙活動等 (輸出管理小委員会)

1) 小委員会を開催し情報交換・情報収集と会員に対する啓蒙活動を行う。

2) 経済産業省と協力、(一社)日本電気計測器工業会と共催で安全保障貿易管理説明会の開催

3) 輸出管理、安全保障貿易管理に関する会員向けセミナー開催

(5) 海外市場における分析機器市場調査

1) 海外団体との会議における各国の分析機器市場データ収集

2) 海外展示会派遣時に実地調査を実施

3) データの会員への還元を図る。

7. 医療機器委員会

予算 7,290 千円 (6,390 千円)

体外診断用医療機器 (IVD 機器) の発展のための施策実現とその推進を目的に次の事業を行う。

(1) 他団体との連携

- 1) (一社) 日本医療機器産業連合会(医機連)の関連委員会(法制、QMS 環境、販売・保守、企業倫理、UDI、PMS、技術、臨床評価、国際政策戦略)に参画し、情報収集と JAIMA の意見を反映する。また、薬事法関連、欧州指令等について他の委員会とも連携をとり、会員への情報提供・調査等を行う。
 - 2) (一社) 日本臨床検査薬協会(臨薬協)との IVD-MD 会議を通して、情報/意見交換や共通の課題について検討を行う。特に、IVD 機器の地位向上に係わる活動を行う。また、主にアジアに向けた調査活動及び、国際協力活動を進める。
 - 3) 動物用医療機器に関連する法規制検討に向け関連省庁および団体との連携を取り、情報収集と工業会の意見の反映をはかる。
 - 4) 国際的な IVD の組織として GDA(Global Diagnostic Alliance)が立ち上がった。これに臨薬協と共に参加し、国際的な IVD の地位向上を図る。
- (2) 臨床検査の標準化の推進
- 1) (公社) 日本医師会による全国レベルの外部精度管理調査事業を支援するため、測定装置コード表の改訂管理を引き続き行い、関係情報を工業会のホームページに掲載する。
 - 2) 海外規格に関する国際会議への参加等により最新の情報を入手し、会員に提供すると共に、体外診断機器の分野での国際整合(JIS化)に貢献する。
- (3) 国際協力
- 1) 海外新規制に関する情報の迅速な入手と会員会社への展開をはかる。また、IVD 機器の国際的な地位向上に貢献する。
 - 2) ISO/TC212(臨床検査と体外診断検査システム)等医療機器に関する国際規格審議に参加し、国内意見の国際規格への反映を図る。
 - 3) EDMA(欧州)、AdvaMed-dx(米国)等の IVD 関連工業会との会合(GDA 会議)を通じて、IVD 機器事業の将来展望や発展について情報・意見を交換する。
- (4) ライフサイエンスイノベーションへの取組み
- 1) ライフサイエンスイノベーションへの取組みとして、新しい診断技術やコンパニオン診断に関する勉強会/セミナーを開催する。
 - 2) 技術の掘起しと交流・融合の機会を提供できる場として JASIS 活用策を検討し、ワークショップ等の開催をサポートする。
- (5) 公正取引の徹底
- 1) 医療機器の公正取引に関する指導、相談、普及活動等について、医療機器業公正取引協議会日本分析機器工業会支部で行うほか、支部会員を対象に公正競争規約インストラクター養成研修会を実施する。
 - 2) 学会及び学会等に付随したブース出展に対する指導、相談、普及活動を実施する(各支部分担)。
 - 3) 医療機器公取協ホームページリニューアルに伴い、公正取引活動に関する情報を公開する。

8. 広報委員会

予算 11,470 千円 (8,080 千円)

有効、有益な整理された情報を各委員会や事務局と連携しタイムリー且つ迅速に内外に発

信し、工業会の認知度／知名度向上及び会員サービス向上を目的に次の事業を行う。

- (1) 各種 Web サイトのリニューアル、連携及びメールマガジンの発行（インターネット関係）
 - 1) JAIMA Web をリニューアルし、JAIMA のプレゼンスを向上すると共に、時代の変化に適した情報発信に寄与する。
 - 2) Web 分析総覧の本格的なリニューアル実現に向けて、利用者へのアンケートを実施し、企画戦略会議をはじめ、関係委員会と良く検討する。リニューアルを実施することが最良であるという結論に到れば、2018 年 JASIS 開催に間に合うようリニューアルに着手する。
 - 3) JAIMA Web を中心として、Web 分析総覧、JASIS Web による 3 つのサイトの結びつきを強化し、情報発信力を高める。
 - 4) 日本語、英語とも細かなメンテナンスを行い、情報発信力を高める。
 - 5) 会員向けメールマガジンを月刊で継続して発行し、規制動向等、国内外の情報提供を行う。あわせて会員読者数の増加に向けて環境を整備する。
- (2) JAIMA Season の定期刊行及びリニューアル（会報関係）
 - 1) 工業会の内外のステークホルダーに対して適切な情報を発信し、会員サービス、内外ファンづくりに貢献する。また、その実現に向けて誌面改革に取り組む。定期刊行の実施。
 - 2) 読者により良く伝わる誌面をめざして誌面・デザインリニューアルを検討する。
- (3) 情報発信による JAIMA 認知度向上（プレス関係）
 - 1) 事務局との連携において、各事業情報より、社会性、公共性のある鮮度の高い情報をタイムリーに発信し、記事化に努める。また、海外向けリリースを増加させ、JAIMA の対外的、または国際的認知向上に寄与する。
 - 2) Wiley 社をはじめとするメディアパートナーと良好な関係を構築し、JAIMA の対外的、または国際的認知度向上に寄与する。
- (4) 工業会に関する冊子の改訂及び発行（工業会案内等）
 - 1) 「工業会案内」（和文／英文）を印刷・発行する。
 - 2) 「入会のご案内」を部分改訂（和文）して発行する。

9. 展示会委員会

予算 392,350 千円（367,045 千円）

（技術委員会及び国際委員会執行分を含む）

分析機器に関する展示及び情報提供（セミナー開催等）に関し、次の事業を行う。

(1) JASIS 2016（第 5 回）の開催

- 1) JSIA と共に JASIS 委員会を組織。JASIS 委員会の下に、5 つの小委員会（展示、展示広報、プロジェクト、新技術説明会・新ソリューション説明会、来場促進）を設置し、来場者 3 万人、出展 500 社・1,500 小間を目標に掲げ、積極的な企画立案を行う。
- 2) ライフサイエンス分野の出展社・来場者開拓
 - ①4 年目となる「ライフサイエンスイノベーション」企画の更なる充実・強化に注力

- する。今後、先端診断分野での最先端分析機器開発の成果が投入されていく可能性が高い6分野「次世代ヘルスケア」「予防医学」「先端創薬」「先端診断」「細胞・再生医療」「フードサイエンス」に加え、これらに関連するIT技術をもカバーする企画へとステップアップを図る。最先端分析機器と他の技術との融合を促進するプラットフォームとして出展社・来場者にJASISを活発に活用いただくことを目指す。
- ②国内外のライフサイエンス分野に関係する諸機関と協力関係を構築し、これらの分野の国内外の最新動向についてもJASISで情報提供することを目指す。
- ③報道機関向けに先端診断分野を分かりやすく解説するセミナーを広報委員会と協力して行うことでJASISとマスメディアとの関係を深め、JASISのプレゼンス向上を図る。
- 3) 従来の新技術説明会の発展版として、第1回オープンソリューションフォーラム(テーマ別新技術説明会)を開催し、出展社、来場者双方の便益に資する。
- 4) 「JASIS 関西新技術説明会」の将来ビジョン検討
2014年実施の「関西新技術説明会」は、JASISとして初めて関東以外で開催し、好評を博した。その結果を踏まえ、2017年以降の開催予定・開催方法について検討する。
- 5) メーカーの新規販路開拓を支援する企画として、ディーラー来場者向け「製品ショープレゼン&交流会」を開催する。聴講者層、発表製品層の双方において、従来の新技術説明会、コンファレンス、新企画オープンソリューションフォーラムと重複しない層をターゲットとする。
- 6) アジアの中心的展示会へ向けたJASISのグローバル化推進
- ①関係各委員会と協力し、Pittcon、Analytica等海外展示会へ出展するなどの手段により、JASIS認知度向上を図ると同時に、JASISグローバル化に向けた情報を収集分析する。
- ②海外出展社増加策として、団体出展への出展料割引及び新技術説明会同時通訳特別プランを継続。
- ③会期中初日に第5回グローバルレセプションを実施し、業界の国内外の交流促進を図る。
- ④国内の公的研究所に在籍する外国人研究者を、将来母国で機器購入決定権者となり得る顧客予備軍と捉え、このような層への集客を強化する。
- 7) 将来のユーザーもしくは業界の担い手である理系学生来場者の集客に注力する。
- 8) 国内出展社増加策として出展募集説明会の実施。
- 9) JASIS WEBサイトでの動画配信、バーチャル展示会システムの導入検討等 情報発信手段の拡充。
- 10) 新技術説明会、コンファレンスの開催。
- ①各関連団体・学会等および工業会によるJASISコンファレンスを開催する。
- ②コンファレンス参加者を展示会場へ誘導する方策を継続して実施。
- 各会場間(新技術説明会、コンファレンス、展示会場)の来場者回遊状況や、複数日来場している来場者数の把握が可能な「バーコードによる来場者カウントシステム」を新たに導入。得られる情報を解析し、新技術説明会、コンファレンス、展示会場で

行われる各企画の評価を行い、新企画立案、現行企画の改善に役立て、JASIS の集客力の更なる向上を目指す。

(2) JASIS 2017 (第 6 回) の開催準備

1) JASIS 2017 の開催に向け、更なる国際プレゼンスの向上を目指した企画を検討・推進する。

2) JASIS 委員会の各小委員会の運営内容の検証を行う。

(3) 委員会・特別委員会への参画と連携

JASIS と関連する委員会・特別委員会への参画・連携によって工業会事業の推進に貢献する。

(4) JASIS 中期戦略検討特別委員会と協力し、中期的課題の解決策を検討。JASIS 2016、2017 開催においてもその検討状況を踏まえた企画運営を行う。

10. 統計委員会

予算 1,220 千円 (2,360 千円)

統計情報の会員への提供等、次の事業を行う。

(1) 会員の統計データの収集及び配布

会員企業から提供を受けた四半期ごとの生産高及び輸出高、輸入品売上高のデータをまとめ、理事会に報告すると共に公表する。

(2) 海外協力団体とのデータ交換及び配布

米国 ALDA、欧州 EUROM II 等と受注統計データを交換し、世界市場データとして会員に提供する。

(3) 新統計システム導入に向けての準備

昨年 1 回理事会において制定された「JAIMA 市場統計管理システム運用規定」に基づき本年 4 月から運用を行う。なお、実際のデータ入力は第一四半期終了後となる。

IV. 主として事務局が行う事業

1. 分析機器の生産、流通、貿易及び利用に関する調査事業

生産・輸出入について統計委員会と連携して以下の動向調査を行う。

(1) 正会員、賛助会員を対象に生産高、および輸入品売上げを四半期毎に、製品分類別、輸出地域別に調査し集計する。

(2) 輸出に関し、財務省貿易統計よりデータを抽出し、総額及び国別に集計する。

2. 分析機器に係る法令の施行及び行政施策の実施に対する協力

計量法関係、環境公害関係法令、薬事法令、安全保障貿易管理令等の施行並びに予算執行等行政施策の実施に関し、関係省庁と連絡を密にし、会員に情報を提供する。

また、計量法、大気汚染防止法、水質汚濁防止法、薬事法、労働安全衛生法等に関連する法令の動向を会員に周知徹底させる。

3. 生産性向上設備投資促進税制に関する証明書発行事業 5,750 千円(5,250 千円)
政府の生産性向上設備投資促進税制に協力し、分析機器に関する認定書を審査発行する。
4. 工業会ホームページの充実
広報委員会と連携し、JAIMA ホームページのコンテンツ充実をはかり、委員会情報をはじめとする工業会諸活動の状況をタイムリーに発信する。新たに開始したメルマガとの連携で会員への情報伝達を向上させていく。
5. 分析機器工業の経営実態調査
分析機器工業の経営実態を明らかにするため、会員の実態調査を実施すると共に、特定の会員に対して毎月出荷額、受注額等の需給動向調査を行う。
6. 工業会に関係する他団体主催の展示会、シンポジウム等に対する協賛名義、後援名義等による協力・支援。
7. 分析機器に関する製品安全化事業として一般より有利な国内及び輸出向け団体 P L 保険事業（継続実施）。
8. 分析機器・科学機器遺産登録認定事業
企画戦略会議と協力して分析技術/分析機器及び科学技術/科学機器関連の遺産認定を行い、重要な分析機器・科学機器の文化的遺産として保存し後世に伝える。尚、遺産認定事業は今年度（5回目）で一旦休止する。
9. 顕彰等に関する事業
 - (1) 国、公共機関、団体等が行う叙勲、褒章、大臣表彰その他の表彰制度を会員に紹介し候補者の推薦と資料作成を行う。
 - (2) (公社)日本分析化学会が実施する先端分析技術 JAIMA 機器開発賞に対し引き続き協力する。